

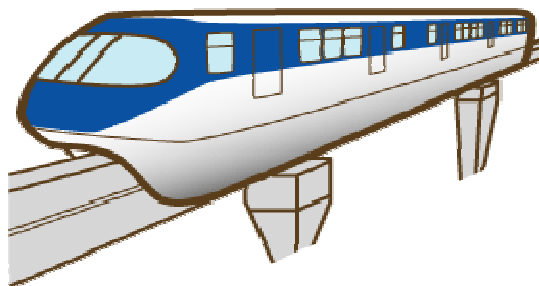
wellvoice

むらやま市民討議会

むらやまの未来について考えよう！

(2013年9月8日実施)

報告書



主催：公益社団法人立川青年会議所

地域交流委員会

後援：武蔵村山市

もくじ

はじめに	1
市民討議会とは	2
市民討議会の特徴	2
開催までの経緯	3
運営の結果	6
開催前の準備	6
開催当日	8
テーマ討議の実施結果と考察	11
実施後の評価と今後の課題	16
参加者のアンケートから	16
実施後の評価と課題	17
今後の展望	19
まとめ	20
謝辞	20
資料編	

wellvoice の名称について

市民討議会に対する知名度や内容に対する認知度がまだまだ低い現在、「公開討論会」や「市民議会」などの区別が付かず、浸透させる上での障害となるのではとの考えから、愛称をつけようという声がありました。

いくつかの案から、最終的に「wellvoice」の名称が選ばれました。

① “well（申し分なく）”と “voice”（声）を合わせた造語としての「よりよい声」として、② “well” のもう一つの意味でもある「井戸」にかけ、「井戸端会議」のように気軽に活発に意見を出し合えるような討議体としたい、との思いから命名しました。

はじめに

現在、地方自治体は住民の声を施策に活かすため、市民アンケートやヒアリング、政策公募、タウンミーティングや市民会議などに取り組んでいます。しかし、これらに参加する住民の多くは、それぞれの分野に興味のある時間的に余裕のある限られた人々であることも事実です。

この為、さまざまな問題意識をもちながらも、普段住民票の交付行政との接点が少なく、実際には各々地域行政への取組に積極的に参画するまでには至らない多くの市民にとって、行政に参画する可能性は限られているのが現状です。

このような皆さんを「受け手」のままにせず、もっと多くの市民の豊かな知恵と経験を引き出し行政に反映させることは、幅広く多様な市民に対応した行政サービスの提供を可能とし、それを市民が実感し参画意欲をさらに高

めていく上で、重要な事と考えております。

この事業は、無作為に選出し選ばれた市民により、地域や社会の問題について討議し、得られた合意を行政・地域に提言していくものです。地域の課題などに対して「普通」の市民が抱く意識を広くくみとり、さらに地域社会への参画へと導く機会として、この市民討議会を多様な市民参画方法のひとつとして、提案、実施していきたいと考えております。

今後も「市民討議会」を継続して開催し、行政や他団体との協働も視野に入れながら、よりこのまちに適した市民参画・地域課題の解決ツールとして発展させていきたいと考えております。ぜひとも皆様には、今後ともご理解を賜り、共にこの「wellvoice」を新しい社会のしくみとして確立できるよう、よろしくお願い申し上げます。

公益社団法人 立川青年会議所
地域交流委員会
委員長 三宮毅彦

市民討議会とは

地方分権の進む昨今、国や地方自治体でつくられる計画や条例などにおいて、市民の意見を取り入れる機会が増えてきました。

しかしその手法は、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べているのは関係者や専門家などの特定の市民であるのが実情です。

個人の行政参画意識の高いドイツには「プランクズツェレ (planungszelle)」と呼ばれる市民参画のシステムがあり、利害が複雑に絡む地域問題の解決などに大きな効果をもたらしています。解決しなければならない問題などを様々な視点から複数のテーマに分け、無作為に選ばれた市民や地域の住民がテーマごとに専門家などの意見を聞いた上で討議を行い、結論を導き、メディアなどを通じて発表していくものです。

市民討議会は、この「プランクズツェレ」を日本版にアレンジし、社会に定着させるための試みです。地域や社会が抱える問題を市民や地域住民が共有して考えるきっかけとなり、地域社会の再生の足がかりになるものと私たちは確信しております。

社団法人立川青年会議所では、より多く、幅広く市民のみなさんのご意見を伺う市民参画の方法として、「wellvoice むらやま市民討議会」を開催し、社会に定着させていきたいと考えております。

市民討議会の特徴

(1) 参加者の無作為抽出

市民の中から無作為に抽出された一定数(未成年者を除く)に開催の案内状を送りし、

参加者を募ります。

(2) 参加者への有償性

多くの市民参加型事業とは異なり、討論会への参加者には日当・食事が支給されます。これはドイツのプランクズツェレと同様、金銭を支給することにより参加者に『責任ある仕事』として取り組んでもらう点に重きをおいています。

(3) 専門家による情報提供

討議の開始に先立ち、テーマに関する専門的知見をもった関係者を招き、参加者への情報提供を行います。情報の操作性をさげ、異なった意見を聞けるよう複数からの意見を伺います。

(4) 討議・発表・投票

情報提供後、おおむね5人を1グループとした討議を行います。立川青年会議所では案内を受けた方の誰でも参加がしやすく、かつ市民討議会の仕組みを知ってもらうために、75~90分の討議を1コマとし、午前・午後各1コマ、1日間の開催としています。(プランクズツェレの場合は90分の討議を1コマとして1日4コマ、4日間にわたり行い、提言をまとめています)。

討議後にグループ単位による意見を発表した後、参加者全員による意見への投票を行います。賛同できる意見であれば他グループへの投票もできます。

(5) 市民報告書の発表

討議・投票の結果をもとに意見の集約を行い、市民・行政機関・マスコミなどを通して提出公表を行います

開催までの経緯

2005年

(1) 東京青年会議所における開催

2005年7月に、社団法人東京青年会議所千代田区委員会の主催により、国内初の「市民討議会」が開催されました。「市民で形づくる行政—社会的支援すべき市民活動の課税問題」をテーマに2日間にわたり討議を行いました。

12名の参加により「市議会と市民の関わり」をテーマとする討議を行いました。

情報提供者として三葛敦志氏(国分寺市議会議員)、伊藤伸氏(構想日本 政策スタッフ)を招き、市議の立場からみた議会の姿や各国の地方議会のしくみや報酬などについて説明いただきました。また、立川市より企画政策課、議会事務局も傍聴に訪れました。

2006年

(1) 3青年会議所合同事業の開催

4月に、財団法人日本青年会館ホールにて、社団法人東京青年会議所、社団法人町田青年会議所との3青年会議所主催による合同事業「市民の声が“かたち”になる、新しい社会のしくみ」を開催しました。市民の社会参画の必要性、過去における参画の方法論についての『模擬討論会』を行い、市民の社会参画の必要性と市民討議会という手法の有効性を説くとともに、3青年会議所理事長によるパネルディスカッションを実施し、今後の市民討議会の開催、地域への浸透を目指した共同宣言を採択しました。

参加者の皆さんは初対面にもかかわらず、開始直後から積極的に意見を交わし、発表・投票を経て、「議会に関する情報をもっと積極的に公開すべき」「議員・議会と市民の接点を増やす」などの意見傾向が得られました。

討議・運営の結果は『wellvoice たちかわ市民討議会 実施報告書』として立川市議会議員および議会事務局、立川市役所担当各課、マスコミ等に配布し提言を行いました。

これを受け、立川青年会議所では実施に向けた本格的検討に着手しました。

(2) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

2006年度ゆめかなえる委員会(矢澤貴光委員長)担当のもと、8月5日に立川市女性総合センターアイムにて多摩地域では初の試みとなる「wellvoice たちかわ市民討議会」を開催しました。市内地番からの500世帯抽出・ポスティングによる参加者募集を行い、当日

2007年

上記の結果を受け、立川青年会議所では市民の社会参画を促す手法のひとつとして、事業運営全般を2007年度担当委員会(きづく・たちかわ委員会)に引き継ぎ、市民討議会を開催し、制度の認知と充実を図りました。

(1) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

2月4日に立川市女性総合センターアイム5階第1・第2和室にて「駅前デッキと路上演奏・パフォーマンス」をテーマに開催し、市内1,200世帯の無作為抽出・ポスティングを行い10名が参加しました。討議・運営の

結果は報告書にまとめ、4月に行政・市議会・参加者・マスコミ等に配布し提言を行いました。

また5月27日にも「地域コミュニティの活性化」を題材にアイムにて開催し、1500世帯のポスティングに対し10名が参加しました。当日は大学教授・立川市担当者・実際にコミュニティ活動に携わる市民の方に情報提供を頂き、コミュニティが抱える課題、活性化に向けた方策等についての意見を述べ合いました。

開催前日までに産経・東京各地方方面に開催の記事が掲載、3月3日には朝刊の連載記事「民が立つ」に掲載されました。

(2) wellvoice むらやま市民討議会の開催

9月22日に武蔵村山市役所4階会議室にて、4月に行われた市議会議員選挙が無投票に終わったことを受け、2006年に立川市で開催したテーマである「市議会と市民の関わり」を題材に開催しました。市内1,500世帯の無作為抽出・ポスティングに対して9名より参加の回答があり、当日は8名が参加しました。

2008年

2008年度においては地区委員会の国立委員会、立川委員会（未来の立川創造委員会）を担当に市民討議会を開催しました。

(1) wellvoice くにたち市民討議会の開催

2009年度の国立市との協働開催を見据えての実行委員会が立ち上がる中、国立委員会では10月26日にくにたち南市民プラザにて、「くにたちのまつり・まちを活性化させるイベントづくり」をテーマにして開催しました。

市内2,500世帯の無作為抽出・ポスティングに対して17名の参加と12名の傍聴の回答がありました。

(1) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

前年度に引き続き、11月9日に立川市女性総合センターアイム5階第1・第2和室にて、「教育-子ども達の未来を考えてみませんか？」をテーマに「子どもとのかかわり」から何がたりないのか、大人が子どもたちに対して何ができるかを、討議していきました。市内3,000世帯の無作為抽出・ポスティングに対して22名の参加と2名の傍聴の回答があり、当日は18名が参加しました。

2009年

(1) 南の風トーク〜くにたち市民討議会〜

立川青年会議所としては初の試みである行政(国立市)との共同開催により、2月21日と22日の2日間にわたり、「国立市の南部地域のまちづくり」を大テーマに、南部地域に関する6つの小テーマについて討議が行われました。

開催前年の10月より、市民討議会の有識者1名、立川青年会議所から3名、公募市民4名、市役所職員1名の計9名で構成される実行委員会を設置し、運営準備を進めました。

この市民討議会では、無作為抽出に住居基本台帳が活用され、2日間の開催にも関わらず、1,000世帯の募集に対して初日36名、2日目が34名の参加があり、傍聴者も数名の参加がありました。傍聴の中には市外からの方もいらっしゃいました。

同6月26日に市民討議会実行委員会より実施報告書を市長に提出しました。

2011 年

2011 年度においては、まちのかたち創造委員会を担当に立川市で市民討議会を開催しました。wellvoice たちかわ市民討議会の開催
9 月 11 日（日曜日）、立川市女性総合センター
アイム 5 階第 3 学習室において、「自転車をいかしたまちづくり」をテーマに 26 名の一般の市民の方々に参加頂き討議を行いました。
共催には至りませんでした。後援を頂き、行政とは企画段階から関係部署との打ち合わせを重ね、情報提供者としての参加、資料提供、有識者のご紹介を頂きました。更に、今回のテーマを包括する立川市の自転車総合政策実施戦略策定懇談会への答申の機会を頂きました。

運営の結果

開催前の準備

■広報

事業PRとして、A4 両面印刷チラシを作成しました。



案内チラシ

■事業の告知

(1) ホームページ

立川青年会議所ではホームページ (<http://www.tachikawajc.or.jp/>) に市民討議会に関するコーナーを開設しており、過去の開催報告とあわせ、今回の事業に関する内容を掲載しました。合わせて、当会が持つ Facebook のファンページでも告知をしました。

(2) マスコミ

書面によりプレスリリースを2回おこないました。

■無作為抽出夜参加者募集

(1) 住民基本台帳からの抽出

2005・2006 年度に東京青年会議所千代田区委員会で開催された「市民討議会」や、三鷹市において行政が中心となり開催された「みたかまちづくりディスカッション」では、無作為抽出の手段として住民基本台帳が利用されました。ここ武蔵村山市での開催においても、企画の段階にて抽出における台帳の利用を検討し、行政にも問い合わせを続けていますが、昨今の個人情報保護に関する諸問題から住民基本台帳の閲覧に対する制限が強化され中、行政との打合せでも『市民討議会』に対する認知度が低い現段階においては、台帳利用に対して市民の理解を得るのは難しいとの見解もあり、依然として利用にはハードルがある現状です。

(2) 2種類の方法による抽出

上記を受け今回は、これまで同様に市内の各町丁から無作為抽出に地番を選び、当該世帯に直接案内状をポスティングする方法に加え、日本郵便の「タウンプラス（配達地域指定のゆうメール）」を採用し、2種類の手法を用い募集を行いました。

地番からの世帯単位の抽出方法は厳密には完全な無作為抽出とはいえませんが、号数の指定にもランダムで数字をあてるなど、極力恣意性を排除するよう心がけました。

○抽出対象：武蔵村山市

○募集対象：市内在住 18 歳以上の男女

○抽出数：2,000 世帯

○対象者の抽出

母集団：市内の一部地域（伊奈平・大南・学園・三ツ藤）

地点数：2,000

抽出法：層別二段無作為抽出

（層別→地点抽出→対象世帯抽出）

層別：市内の町丁を単位として

層化：19 地区

地点数配分：各地区内の世帯数に応じて発生確率を比例配分

対象者抽出：各地番にランダムで号数の末尾 1 桁を選定（例：9 の場合は 9 号、19 号、29 号・・・のいずれか）

(3) ポスティング

ポスティングには以下の資料を同封しました。
・チラシ・参加のご案内・回答書（FAX 用）
返信用ハガキ（料金受取人払）・立川青年会議所のご案内

ポスティング作業は立川青年会議所メンバーにて分担しました。事前に住宅地図を用いて確認の上投函を行いましたが、当該世帯が転居、もしくは空家や空地となっていた場合は、そのまま持ち帰りました。

表 1—ポスティングによる
各町単位の抽出数及び返信数

町名	世帯数*1	世帯数	返信数
伊奈平	2,237	357	21
大南	5,805	910	65
学園	2,774	438	24
三ツ藤	1,878	295	17
合計	12,694	2,000	127

*1・・・2013 年 7 月 1 日現在(武蔵村山市 HP より)

(4) タウンプラス

（配達地域指定ゆうメール）

今回新たな配布手段としまして、ポスティング方式と並行して、日本郵便のタウンプラス（配達地域指定ゆうメール）を活用しました。3,000 通のご案内を該当する町丁名毎に世帯数構成比で按配した抽出数で郵送致しました。封入物はポスティングと同様の資料を同封しました。こちらはポスティングと異なり宛先は特定しないため、丁目毎の抽出数を配達員がアットランダムに配達する形となりました。この点において、送付先の無作為性を担保しております。よって、封筒の宛名部分は「武蔵村山市にお住いの皆様へ」という内容を記載しました。

この手法の利点は、ポスティングのような宛先違いが生じず、確実にそして瞬時に送付できることです。

また、何と云ってもポスティングに係る人的コストを軽減できることが特徴です。

表 2—タウンプラスによる

町単位の抽出数及び返信数

町名	世帯数*1	世帯数	返信数
榎	1,057	202	3
岸	1,202	200	1
残堀	2,185	415	10
神明	1,526	256	4
中央	1,330	222	9
中藤	964	161	4
中原	1,783	299	3
本町	1,560	261	7
三ツ木	1,525	255	5
緑ヶ丘	4,058	729	7
合計	17,190	3,000	53

*1・・・2013 年 7 月 1 日現在(武蔵村山市 HP より)

市内 5,000 世帯へのポスティング及びタウン
プラスで募集を行った結果、180 名から返信が
あり、40 名の出席の回答がありました。

開催当日

2013 年 9 月 8 日（日曜日）、武蔵村山市役所
4 階会議室において、「武蔵村山の近未来を考え
てみませんか」（そもそも武蔵村山に何故モノレ
ールが必要なのか・モノレールで人を呼び込む
ために、「むさむら」の魅力を掘り起し、まちを
発展させよう）をテーマに、複数の情報提供を
得た上で討議を行いました。

■会場

今回は洋室（テーブル・椅子形式）で設営し
ました。

■討議の傍聴

見学者は直接室内後ろ側の傍聴席より見学を
行いました。

■運営人数

当日の運営は統括責任者以下、運営管理者 1
名、司会進行 1 名、参加者受付 1 名、運営補助
7 名の計 10 名にて実施しました。

■討議のグループ分け

今回は討議の単位として、5 名×5 グループと
6 名×2 グループにランダムに分けました。グル
ープ分けについては予め午前の DISCUSSION 1 で
はアットランダム 1・2・3・4・5・6・7 グル
ープに分け、討議を行いました。

また、午後の DISCUSSION 2 も同様に、予め 1・
2・3・4・5・6・7 グループに分け、討議を行
いました。

また、円滑な進行を図るためグループにはそれ
ぞれ、司会と書記兼発表役（椅子及びテーブル
の脚部分にシールを貼付し識別）を設けました。

表 3-参加者（37 名）

男性 (65)	伊奈平
男性 (59)	伊奈平
男性 (73)	伊奈平
女性 (70)	大南
女性 (42)	大南
男性 (70)	大南
男性 (33)	大南
女性 (46)	大南
男性 (63)	大南
男性 (71)	大南
男性 (71)	大南
男性 (74)	大南
男性 (69)	大南
女性 (71)	大南
男性 (54)	大南
男性 (50)	大南
男性 (38)	大南
男性 (64)	学園
女性 (41)	学園
男性 (51)	学園
男性 (38)	学園
男性 (61)	学園
男性 (74)	学園
男性 (66)	残堀
女性 (64)	残堀
男性 (75)	残堀
男性 (74)	神明
男性 (60)	神明
女性 (68)	中央
男性 (20)	中藤
男性 (69)	三ツ木
女性 (38)	三ツ木
男性 (59)	三ツ藤
男性 (33)	三ツ藤
男性 (69)	三ツ藤
男性 (75)	三ツ藤
男性 (77)	本町

■タイムスケジュール

午前は討議 55 分（用紙への書き込み作業も含む）、発表 3 分以内×7 グループ、投票 10 分、午後は討議 65 分（午前と同様）、発表 3 分以内×7 グループ、投票 10 分にて行いました。開始時に討議の進め方、発表・投票の流れに関する説明の時間を設け、スムーズな進行ができるよう配慮しました。

■情報提供・専門家への質疑

今回の情報提供は午前・午後ともに討議の前にそれぞれ行いました。第 1 討議は指田政明氏（武蔵村山市役所都市整備部都市計画課課長）、木下瑞夫氏（明星大学理工学部教授）第 2 討議は田代勝久氏（武蔵村山市役所生活環境部産業観光課課長）、澤田泉氏（モノレールを呼ぼう市民の会 副会長）、小澤清富氏（立川南口西通り西会商店会会長）が情報提供を行いました。

情報提供終了後、若干の質疑応答を設定しました。質疑の内容については、説明の中での不明瞭な部分に関する質問のみにとどめました。

■事前の自己紹介

グループに分かれた後は初対面の緊張をほぐすため、最初に自己紹介を行いました。住居の場所や参加した動機などを全員が話しました。名札の着用と互いに「～さん」付で呼び合うとの事前ルールを確認して討議に入りました。

■討議形態

討議の間、グループごとにファシリテータを配置し、情報提供への取り次ぎ、その他討議運営上の補足等の対応を行いました。

討議ではグループごとに大判の付箋紙を用いて、意見を出し合い、意見を最大 3 つに集約しました。また「残したい意見」（付帯意見）として用紙下部に記入欄を設け、より多彩な意見を表明できるようにしました。

■討議結果の発表

各グループにて、討議で表出された意見をあらかじめ準備した模造紙にサインペンで書き、室内中央に設置したホワイトボードに掲示の上、グループ単位で意見発表を行いました。発表は 1 グループ 3 分以内で、各グループメンバー全員が前に立ち、その代表者が行いました。

■投票

各グループの発表後、参加者 37 名による投票を実施しました。1 つの課題（小テーマ）に対してひとりあたり 5 票をもち、各グループより発表された意見に対する賛成票を投じました。



当日のタイムスケジュール

9:30	受付開始
10:00	開会式 挨拶・ご説明
10:05	趣旨説明・注意事項
10:20	第1 討議開始
	情報提供① 武蔵村山市役所都市整備部 都市計画課課長 指田政明氏
10:35	情報提供② 明星大学理工学部教授 木下瑞夫氏
10:50	自己紹介 グループ内で自己紹介を行っていただきました。
10:55	意見出し ポストイット使用しグループ内で意見を出していただきました。
11:25	まとめ グループ内で意見をまとめ発表準備をしていただきました。
11:45	発表 グループの代表に発表していただきました。
12:10	投票 全意見から一人5票投票していただきました。
12:20	総括 青年会議所委員が投票結果の発表と討議の総括を行いました。
12:25	昼食・グループ変更
13:20	第2 討議開始
	情報提供① 武蔵村山市役所生活環境部 産業観光課課長 田代勝久氏
	情報提供② モノレールを呼ぼう市民の会 副会長 澤田泉氏
14:05	情報提供③ 立川南口西通り西会商店会会長 小澤清富氏
14:10	自己紹介 グループ内で自己紹介を行っていただきました。
14:50	意見出し ポストイット使用しグループ内で意見を出していただきました。
15:10	まとめ グループ内で意見をまとめ発表準備をしていただきました。
15:40	発表 グループの代表に発表していただきました。
15:50	投票・アンケート聴取 投票とアンケート聴取を行いました。
16:00	総括 青年会議所委員が投票結果の発表と討議の総括を行いました。
16:05	閉会挨拶
16:25	謝礼支払い・参加者見送り

テーマ討議の実施結果と考察

テーマ設定の背景

今回、市民討議会のテーマとして武蔵村山の近未来を考えてみませんか(そもそも武蔵村山に何故モノレールが必要なのか・モノレールで人を呼び込むために、「むさむら」の魅力を掘り起し、まちを発展させよう)について取り上げました。

武蔵村山市は武蔵野の自然を色濃く残すまちです。そのまちは今、新青梅街道の拡幅事業やモノレールの延伸計画を受け、行政内では多摩都市モノレール推進担当が設置され、活発に市民会議等が行われています。しかし、その参加者はどうしても、学識経験者や地権者で構成されており、広く市民の意見を拾い出し、それに基づいた会議がなされているとは言えない現状があります。そこで、普通の市民がまちづくりに積極的に参画し、武蔵村山市が「自分達のまちは自分達でつくる」意識に溢れたまちとなる事を目的とし、市民討議会を計画致しました。今回、まちの将来を討論する切り口として「モノレール」をテーマに挙げたポイントとして、以下のものがあります。

- テーマが武蔵村山の将来を大きく左右するものであり、行政も大々的に取り上げており、市民にとって身近である・・・参加意欲、意見の出しやすさ
- アイデア抽出型・・・不満、要望に終わらない→建設的な意見抽出が可能
- 目指すまちづくりのスタイル・・・市民が自分達で考えまちづくりを行うというスタイルに繋がる。
- 行政の要望・・・行政は、計画実現の為にあらゆる手段を講じている。行政にとっては、

広く市民の意見や要望を聞き、一体となって計画実現を目指したいという強い考えがある。

情報提供者・資料提供につて

情報提供者として、武蔵村山市役所都市整備部都市計画課課長の指田政明氏、明星大学工学部教授の木下瑞夫氏、武蔵村山市役所生活環境部産業観光課長の田代勝久氏、モノレールを呼ぼう市民の会副会長の澤田泉氏、立川南口西通り西会商店会会長の小澤清富氏をお迎えしました。

指田課長からはモノレールの説明と延伸計画の方向性と行政の取り組みについて。木下氏からは多角的にモノレールを捉える視点と他地域の取り組み事例紹介について。田代課長からは武蔵村山の観光資源と行政からのPRについて、澤田氏からはモノレールを呼び込むために行ってる活動について、小澤氏からは既にモノレールが通ったまちの実体験に基づくお話しといった具合にそれぞれの情報提供がありました。

得られた意見の傾向について

午前・午後にわたる討議の結果、次ページ以降に示す意見の傾向が現れました。これらの結果が導かれるまでに、午前・午後それぞれ37名の武蔵村山市民が2つの課題について同様に議論し、意見発表を行いました。

次ページ以降に、両課題における参加者の意見傾向を載せました。投票は参加者37名が各々5票を投じ、各課題とも投票数は185票となります。

DISCUSSION 1 そもそも武蔵村山に何故モノレールが必要なのか	投票数
その前に市に対してまちづくり、都市計画の説明が欲しい	15
モノレール延伸P R(市外への)	13
市の魅力P R(武蔵村山の良さをP Rする)	11
単独カード(市内に都議会議員がいないため、都に対して強い意見がいえないのではないか?)	9
採算性(デメリット)(モノレール延伸は必要ない。これからは黒字がとれるという保証がない)	9
市外からの人がどんな目的で本市(武蔵村山)に来られるのか	9
モノレール不要(モノレールを通して赤字になる)	9
利便性のため	8
賛成 バスは不便、交通利便向上	8
市民の願い(リーダーシップを持って推進する)	7
交流によるまちの活性化	7
自然環境 自然残し集客	7
集客のため(モノレールができれば市外からどこへ来るのか?) (駅から目的地のアクセスは?)	6
環境にやさしい(CO ² 削減、自然との共生、狭山丘陵との共生)	6
将来性のため(立川とは違った機能役割を持つ(今までの延長線ではない)	5
モノレールの料金見直し(乗客増のため)	5
事業採算性(採算性の事業判断の大きなウェイト?)	5
現状(バス)の不便さ(モノレールの延伸は必要、バスでは定時制がない)	4
利便性(メリット)(本市を活性化させるためには必要なのかな?)	4
人にやさしい(バリアフリー・エレベーター・安全性・定時に移動できる)	4
開発発展とモノレール 駅周辺拠点に開発(施設色々)	4
そもそも(テーマと情報提供が合っていないんじゃないの)	4
採算性(採算性の解決)(料金の問題)	3
必要性の再確認(人口減少化時代 超高齢化時代 採算性確保できない)	3
条件付き(賛/反)自然保全の決まり	3
モノレール必要(市役所から峰、三ツ木までは交通に不便)	1

～DISCUSSION 1～

モノレールは、確かに便利な乗り物です。今まで公共交通手段がバスしかなかった武蔵村山市民にとっては悲願の一つかもしれません。しかし、一方で料金の高さやコストの高さなども指摘されています。また、公共交通施設の充実としては、先程述べたバス便の更なる充実という考えもあります。

第1討議では「武蔵村山の未来」を考える前に、改めて、そもそもモノレールってどんな特徴や役割があるのだろうか？モノレールそのものについて、或いは、モノレールを利用することで生ずるメリット・デメリットってなんでしょう？について考えてみたいと思います。

「何故モノレールが武蔵村山に必要なのか」ということについて、色々な角度から考えてみませんか？

【結果】

何故モノレールが必要なのかという問いに対しての答えとしては、「利便性」関係が（25票）「交流によるまちの活性化」（7票）「集客の為」（6票）「将来の為」（5票）「駅周辺の開発」（4票）といったまちの発展の為に必要であるという意見と「市民の願い」と言った心情的なものまでありました。ただし、その場合でも自然は残した形でまちを発展させなければいけないという趣旨の意見が18票ありました。また、モノレールのもう一つの側面である「CO²削減等自然にやさしい」（6票）

「安全性があり定時に移動ができるということから人にやさしい」（4票）と言う意見もありました。また、テーマとは違いますが、「市の将来のまちに対する説明が欲しい」「市外へのPRが必要」との行政に対する要望も頂きました。これも期待の表れの一部と考えられるでしょう。

また、モノレール事業の採算性を気にしてその必要性を疑問視する意見も18票あったことは、モノレールの必要性を訴える上での一番の課題となりそうです。ただし、その解決方法を討論するのが第2テーマの課題でもありますので、導入としては良いテーマであったと考えられます。

投票の結果からすると、モノレールの利便性・まちの発展、自然への対応性など必要性は明確だが、それでも採算性と明確な将来のまちのビジョンが必要であることが、改めてこの結果から浮彫となりました。

DISCUSSION 2 「むさむら」の魅力を掘り起し、まちを発展させよう	投票数
自然を活用する（遊歩道・野山北公園の整備）	11
通年で呼べるイベント事業展開(かたくり湯発着イベント等)	11
狭山丘陵保全・活用（イベントステージ・ミニギャラリー等）	10
自然環境で呼び込む集客(田舎っぷりをうり出す。無理に都市化させる必要なし)	10
交通機関の整備(駅に行くまでの交通を整備する。(バス等)公共交通の充実)	9
むらやまにふさわしい駅の顔づくり(駅名は親しみが出るように公募する)	9
話題性のある発案（ゆるキャラ等）	8
居住関連 子どもお年寄り・住みやすい街づくり、(仮想) 駅・駅周辺の開発	8
広域のPR活動(市内のみの延伸活動にしまい・武蔵村山の市外アピール)	7
公園等の整備(自然を生かした施設(公園)等の建設)	7
つなぐ・ネットワーク（人・自転車）	7
街づくり(道の駅・スポーツの街づくり)	7
施設の充実(自然を生かした観光スポットづくり)	6
地域イベント特色のPRを大きくする。新しく企画する。	6
商業・企業誘致(大型企業の誘致・空き店舗利用、若い方の店づくり)	6
単品コンセプトをまとめる（バラバラになっている単品コンセプトをまとめる）	6
集客する・イベント(イベントステージ・ミニギャラリーなど)	5
国際化に通じる人・しくみ作り(国際化、都内のホテルにない魅力)	5
今あるものを活用する(サイクリングロードの活用)	4
外へ向けたPR(ガイドブックにPRを掲載して欲しい)	4
環境を守る（駅前の開発ルールを決め、事前に設計を作る。）	4
疑問(観光場所・文化財へのアクセスはモノレールのみでOKか)	4
広報活動（村山PR・市外PR・マップのセール）	4
自然・文化・歴史(自然環境を目玉にする。まちの歴史と文化・古き良きものと共存)	3
跡地利用の具体化(イオンモールを主体とした層(若者でも来るような)	3
インフラ整備(駅周辺の整備を図る（商店街等）)	3
団体誘致で集客(出来るだけ企業誘致を税の減免措置などを行う)	3
それでも採算性は必須(採算性は必須(健全) つけは自分たちに戻る)	3
その他	2
単独会見(駅構内のエレベーター等のバリアフリー等充実)	2
広報活動(市の施設のPR, かたくりの湯、自然等)	2
イベント活動(小規模なイベント開催)	1
住宅拡大(大都市の立川に隣接している点を最大限に活用した住宅拡大)	1
市民にとって有意義なまちづくり(農業が多い町なので早く“道の駅”を作り、地元野菜のPRを)	1

～DISCUSSION 2～

モノレールで人を呼び込むために、「むさむら」の魅力を掘り起し、まちを発展させよう！

隣接する立川市が駅前を中心に巨大都市化を図る中で、武蔵村山市は武蔵野の自然を色濃く残す素晴らしいまちです。そのまちを新青梅街道の拡幅事業やモノレールの延伸計画を受けて、どう今の自然豊かな街並みと両立させていくのか考える分岐点があるのではないのでしょうか。あらゆる可能性が広がる武蔵村山の魅力を掘り起し、まちを発展させる方策を考えましょう。

第2討議では、モノレールの延伸で人が出ていくだけでなく、多くの人を訪れる魅力あるまちになるべく「むさむら」の魅力を掘り起し発展させる方策について討論してみたいと思います。

【結果】

モノレールの必要性を認識し、先に上がった採算性という課題を解決する為にも、「むさむら」の魅力を掘り起こしてもらい、どうやってまちを発展させるべきかという観点で話し合いました。結果は「遊歩道・野山北公園を整備し自然を活用する」(11票)、「狭山丘陵保全・活用」(10票)「無理に都市化させる必要なく自然環境で呼び込む」(10票)、「自然を生かした施設(公園)等の建設」(7票)、「自然を生かした観光スポットづくり」(6票)「今あるものを活用する(サイクリングロードの活用)」(4票)、「環境を守る(駅前の開発ルールを決め、事前に設計を作る。)」(4票)「自然・文化・歴史(自然環境を目玉にする。まちの

歴史と文化・古き良きものと共存)」(3票)などという具合に、武蔵村山の特色である自然の豊かさを積極的にPRし観光地化すべきであるという意見が多くを占めました。また、「通年で呼べるイベント事業展開(かたくり湯発着イベント等)」(11票)「地域イベント特色のPRを大きくする。新しく企画する。」(6票)「イベント活動(小規模なイベント開催)」など今ある施設を利用してできるイベントの開催を希望する意見も多く出ました。また、行政から積極的に今あるむらやまの良さをPRすることの重要性を訴えかける意見も出されました。他には「単品コンセプトをまとめる(バラバラになっている単品コンセプトをまとめる)」(6票)「団体誘致で集客(出来るだけ企業誘致を税の減免措置などを行う)」(3票)「インフラ整備」(3票)など行政の力に対する期待の大きさが溢れる意見もありました。

これらを見ると、殆どの意見が「むらやま」にお金をかけて大きく変えるのではなく、今あるものを有効利用し、それを積極的に外に対してPRすることの重要性を考えている市民の多さが特色と言えます。第1討議でも出ましたが、採算性を考えた上で意見を述べる方が多くいたことを表す結果となりました。

少数ではありますが、「住宅拡大(大都市の立川に隣接している点を最大限に活用した住宅拡大)」という立川を利用すべきという意見も出されました。

実施後の評価と今後の課題

参加者のアンケートから

市民討議会終了後、参加者 37 名を対象にアンケート調査を実施しました。15 項目について質問を行い、以下にその集計結果を示しました。

(1)wellvoice むらやま市民討議会について

質問 1「wellvoice むらやま市民討議会をご存じでしたか？」に対しては、37 名のうち 5 名から「新聞等で知っていた」と回答がありました。武蔵村山での開催が新聞の地域欄で何度か取り上げられたことや、他地域での市民討議会の開催などによって、少しずつですが認知されてきているようです。また、1 名の方から過去にも参加されたとの回答がありました。

(2)市民討議会の印象

質問 2「市民討議会の案内が届いたとき、どのように感じましたか？」に対して 23 名が「まじめな案内」と回答し、参加者からは一定の理解をもらって迎えられたようです。一方では「なぜ主催者が市役所外なのか」との回答も寄せられました。

質問 5「参加されていかがでしたか？」については、「勉強になった」(27 名)「楽しかった」(6 名)「興味がわいた」(4 名)と、おおむね好感触をいただくことができました。

(3) 参加動機について

質問 3「なぜ応募しましたか？」では「テーマに矯味があるから」(20 名)のように、テーマがごく身近なものだから参加した方、「町のことについて取り組みたいから」(12

名)のように、まちづくりに関心のある方、「市民討議会に興味があるから」(11 名)のように、本会そのものに関心があったなどの回答がありました。

(4) 討議の進め方・設営面

質問 7「情報提供についてはいかがでしたか？」では「わかりやすい」(16 名)の一方で「わかりにくい」(2 名)「情報に偏りがあった」(13 名)、との声も頂いています。

質問 9「討議時間」(今回約 60 分)については、16 名が「丁度良い」と回答しました。

質問 10「開催時間」(10:00~16:30)については、23 名が「丁度良い」と回答しました。

質問 8「グループのメンバー数や雰囲気はいかがでしたか？」では、「和やか」「ちょうどよい」「参考になる意見が多かった」との意見を多くの方からいただきました。

(5)報酬

質問 11「報酬」に対する質問では 22 名が「支払うべき」、8 名は「不要」と回答しました。その他の回答は「どちらでもかまわない」との趣旨でした。質問 12 の金額については 28 名が「適切」、2 名が「多い」、4 名が「少ない」と回答しました。(3 名無回答)

(6) 案内状の送付について

無作為抽出に対して住民基本台帳を閲覧することについては、29 名が「妥当」と答えました。一方で個人情報の漏えいやプライバシーの侵害などを懸念する意見もありました。

(7) 今後のテーマについて

質問 14「今後取り上げてほしいテーマ」には、防災、まちづくり、福祉、財政などさまざまなものが出てきました。

実施後の評価と課題

(1) 無作為抽出・参加者について

今回は市内全域から 5,000 世帯を抽出し、参加目標数を 30 名に設定し募集を行いました。

抽出にあたっては 2,000 世帯を最新版の住宅地図でおこないましたが、転居や建物の取り壊し等により該当する世帯が存在しないケースもありました。残りの 3,000 世帯はタウンプラスを利用しました。

案内総数を前回と同じく、それまでより多い 5,000 世帯に設定した結果、参加数において、参加回答 40 名、当日参加が 37 名になり過去最高となりました。このことから、やはり参加者数は案内の母数に比例して増加することが改めて明らかになりました。

しかし、母数が多いということは、前回同様案内等内容物の準備及び配布作業が膨らむことになり、結果として、下記の問題点が改めて生じることとなります。

抽出世帯数 5,000 世帯の資料印刷・折込、ポスティング 2,000 世帯においては住宅地図からの住所・宛名の拾い出しから入力・ラベル出力、さらにポスティング補助資料(現場地図・指示表)の準備まで要し、トータル 2 週間近くを要しました。

今回の欠席理由の大半が「既に先約があっ

て」からも推察されますが、参加率のご案内が如何にタイムリーに手元に届くかにも大きく関わってきます。がしかし、担当メンバーへの投函物の分配、ポスティング作業と、各メンバーが勤務時間の合間や勤務後の夜間を使つての作業となるため、ある程度のゆとりを考慮したものの、予定通り作業が進められないケースもありました。

そのことから、今回も先述のタウンプラスによる郵送という方法を併用して行いました。ポスティングの人的負担の軽減、不達のような問題点が改善される利点があります。両手法を出欠回答の返信数、参加者数で比較すると、従来のポスティング経由の方が約 7:3 の割合で多数であるという結果がでました。これは、前回と同じ割合であり、やはり宛名の有無で封書の信頼性が判断されているのでは、と分析しています。

今後も募集方法については、経済性、効率性、信頼性など様々な側面から検討を重ねる余地があると考えます。

(2) 不参加理由について

今回 140 名の方より「不参加」の回答を頂きました。主な理由として「すでに先約が入っている」「仕事のため」「法事のため」など日程の理由が多数を占めました。これは法事以外は、早いタイミングで案内が届けば、参加に転じる可能性があるとも解釈でき、よりタイムリーな送付が必要だと感じました。その他、「体調不良のため」など体調に関する理由も多く見受けられました。

世帯単位に配布する現行のシステムでは、世帯主の開封後に家族の間でどの程度情報が伝わるか、諸条件にもよりますが、家族の中の若年層までに届きにくいという問題も推察されます。

また、今回も参加回答が確認できた段階で、電話等でご挨拶を差し上げたこともあってか、当日のキャンセルは出ませんでした。細かいことではありますが、参加者に対しての気配りの必要性も感じました。

表 1-過去の wellvoice の無作為抽出数と参加者

開催年月と開催場所	抽出数	参加者数
2006年8月・立川	513	12名
2007年2月・立川	1200	10名
2007年5月・立川	1500	10名
2007年9月・村山	1500	8名
2008年10月・国立	2500	17名
2008年11月・立川	3000	18名
2011年9月・立川	5000	26名
2013年9月・村山	5000	37名

(3) 事前のPRについて

アンケート結果からもわかるように、まだまだ認知度が低い市民討議会では、この手法自体の話題性を喚起していかなければならないと感じています。例えば、実際にご案内を送付する前段より、討議テーマを公募するなどの仕掛けにより認知度を少しでも高められれば参加数も変化してくるのではないのでしょうか。また、今回も大手各紙に対するプレスリリースを行い事業告知しましたが、こちらでもアンケートの結果から「過去の新聞記事で知っていた」との回答があった通り、引き続き積極的に行う必要があります。

しかし、主に若年層の情報収集源が紙媒体

からネットに流れ、新聞離れが加速している現状もあり、幅広い世代に知ってもらう上では、新聞と並行した効果的なPRについて、ソーシャルメディアの活用など今後の課題も残っております。

(4) 実施テーマ数・日程について

今回は午前・午後各1つずつの小テーマとしました。

アンケート結果からも「60分」という今回の時間設定について大半の方から妥当という回答をもらいました。

ただ時間の制約から実施できるコマ数は1日あたり2~3が限度であり、現状の1日開催の場合は、どうしても各論までは至らず、一般的な意見にまとまってしまふところはあるようです。

(5) 会場について

今回は通常の会議室（洋室）で実施しました。参加者の長時間の正座・胡座による負担を考え、且つ過去の参加者の意見から、討議のし易さも考えると、会場の広さや雰囲気づくりも大切なポイントだと思いました。

また、今回は別室・モニターは使用せず、討議室内に傍聴者を入れました。関係者も含めて最大で7~10名が傍聴しましたが、討議進行上大きな支障はありませんでした。少しでも多くの人に討議のプロセスを見聞きしてもらい、関心を高めるという点においては、引き続き可能な範囲で傍聴者を会場に入れる設営を今後も検討したいと思います。

(6)情報提供について

今回の市民討議会では行政の立場から、第1討議では指田政明氏（武蔵村山市役所都市整備部 都市計画課課長）、木下瑞夫氏（明星大学理工学部教授）、第2討議では田代勝久氏（武蔵村山市役所生活環境部 産業観光課課長）小澤清富氏（立川南口西通り西会商店会会長）から提供を頂きました。

参加者からは今回の情報提供についておおむね評価をいただくことができましたが、他方、情報の偏りを感じたというご意見も多く頂きました。

無作為抽出と並びに、「偏りのない情報の提供」が提言に対する客観性、信頼性を担保する上での前提となります。今後の開催においてはテーマ選定も含め行政・地域・他団体への紹介、協働をより進めていくことが必要と感じました。

(7) グループ討議の形態について

ファシリテータをグループごとに配置し、司会と連携しタイムキーパーを兼ね、事務的な取り次ぎや補足を行うスタイルをとりました。討議はそのおかげでとてもスムーズに進みました。ただし、司会の時間説明等のマイクで討議の集中力を削いでしまった部分もあったようです。

今後の展望 (1) テーマ選定

今回、新青梅街道の拡幅事業の進行からその延伸を行政が悲願と考え、武蔵村山市民にとって一番幅広い年代で話題に上がっている「モノレール」を切り口にまちづくりを語って頂きたいと考え、テーマの中心に持って

きました。しかし、行政が悲願と考え市民の要望も強い反面、まだ近々の話ではない側面を有し参加者の捉え方も多様であることから、議論が深まるか、合意形成が図られるか不安も感じておりました。その一つの解消法として、討議の位置づけを課題の抽出ではなく、意見(アイディア)の抽出として構成を組み立てました。実際には、運営側からもう少し論点を明確に提示した上で討議を進めて頂ければという反省はあるものの、多くの建設的な意見が出されたと思います。

今後、どのような開催テーマにおいても、小テーマの設定が討議の質にとって重要になりますし、時間配分や情報提供などとの整合性を充分考慮し組み立てていく必要があると考えます。

(2) 討議結果の反映

討議結果の反映は、アンケートからも参加者の多くが期待する点であります。

集約された意見の行方、つまり行政等に政策反映されたか、またそれを参加者が可視できるか、であります。

討議の結果は「報告書」という形で行政に提言される訳ですが、少しでも討議結果が行政政策に反映されるものである為には、政策形成プロセスの立案段階において実施されることが適切であると思います。

武蔵村山市は、モノレール延伸計画を推進する為に、新青梅街道沿道のまちづくり検討協議会等様々な会議を立ち上げております。今回は、関係ある様々な会議に答申したいと考えております。

まとめ

地域にある問題化解決のためのツールとして「wellvoice 市民討議会」の確立・定着を目指し、立川青年会議所主催のものとして9回目、武蔵村山市においては2007年以来2回目の開催になりました。

今回の市民討議では武蔵村山を発展させるために、行政がその延伸を悲願と考える公共交通機関である「モノレール」をテーマにまちづくりを考えていきました。

まちを立川のように、都市化させることだけが豊かなまちづくりではないはずです。武蔵村山市は、武蔵野の自然を色濃く残す東京では数少ないまちです。そうした特徴と資産を上手に活かしながら、もっと市民の創意工夫で魅力ある「むらやま」を築くことができると思います。その未来のまちの中心になるのがモノレールではないでしょうか。

今後、過去8回の開催の結果を踏まえ運営面を中心とした比較考察を通し、また、市民の皆さんからいただいた意見をいかして地域にアピールし反映させていくか、効率的・効果的なツールとしての深化を検討していく必要があります。同時に活動地域が3市にまたがる立川青年会議所のメンバーとして、事業を行っていく上で自分たち自身が改めて地域を知ること、関心を寄せることの必要性を改めて感じました。

立川青年会議所では、今後も市民討議開催を企画し、実施して参ります。無作為抽出・情報提供・有償性の基本をおさえつつも、テーマやその他実施形態においてはまだ多くの

余地があると思っています。例えば「高齢化対策」がテーマであれば、行政との共催により住民基本台帳を活用し、高齢者がいる世帯に特化した抽出や、「地域の就職」であれば、学生や年齢など特定の層を抽出することも可能となります。一方、市内の特定地域の問題にフォーカスした課題解決型の討議会があってもいいでしょう。また、運営母体も、公募を行ったり、学生と一緒に若年層へのアプローチを行うこともできます。

このように、立川青年会議所としましても地域に根ざしたツールとして、次年度以降今後さらなる進化をめざし継続的な検討を重ねていきたいと思えます。

謝辞

今回の wellvoice むらやま市民討議会に、ご理解ならびにご参加いただきました市民の皆様、またご多忙中の中、情報提供をいただきました指田様、木下様、田代様、澤田様、小澤様にはあらためて厚く御礼を申し上げます

参考資料

wellvoice むらやま市民討議会実施報告書
(社団法人立川青年会議所きづく・たちかわ委員会) 2007年

wellvoice くにたち市民討議会実施報告書
(社団法人立川青年会議所国立委員会)2008年

wellvoice たちかわ市民討議会実施報告書
(社団法人立川青年会議所まちのかたち創造委員会) 2011年

資料編

参加者アンケート結果

※回答に関しては一言一句そのまま掲載させていただきます

1. a) これまでに「wellvoiceむらやま市民討議会」をご存じでしたか？

- | | |
|----------|-----|
| 1 知っていた | 5人 |
| 2 知らなかった | 32人 |

b) a)で「はい」とお答えの方にお尋ねします。どこでお知りになりましたか？

- | | |
|-----------|----|
| 1 チラシ | 1人 |
| 2 ホームページ | 1人 |
| 3 新聞記事 | 2人 |
| 4 知人から聞いた | 1人 |
| 5 その他 | 0人 |

●H19年4.に「市民選のあるべき姿？」体験あり
(立川JC主催)

●届かない

2.「市民討議会参加のご案内」が届いたときどのようにお感じになりましたか？

- | | |
|---------------|-----|
| 1 厄介だなと思った | 2人 |
| 2 不信感を抱いた | 2人 |
| 3 まじめな案内だと思った | 23人 |
| 4 その他 | 11人 |

●結構な会議と思った。

●〆切期日が過ぎてきたので少し不安がありました

その後の対応が良かったので申し込みました。

●なぜ主催者が市役所外なのか。

●面白そう。

●興味がわきました。

●武蔵村山でも開催しているんだと思った。

●関心のある内容だったので参加を決めた。

●是非、参加したいと思った。

●どうして自分が選ばれたのか不思議だった。

●積極的に参画した。

3. なぜ応募しましたか？

- | | |
|--------------------|-----|
| 1 テーマに興味があるから | 20人 |
| 2 市民討議会に興味があるから | 11人 |
| 3 謝礼がでるから | 3人 |
| 4 まちのことについて取り組みたいか | 12人 |
| 5 その他 | 1人 |

●日頃気にしていたことがあったから。

4. 市民討議会の内容説明はご理解いただけましたか？

- | | |
|-------------|-----|
| 1 イメージはつかめた | 15人 |
|-------------|-----|

4 その他 0人

5. 実際に市民討議会に参加されてみていかがでしたか？

- | | |
|-----------------|-----|
| 1 楽しかった | 6人 |
| 2 勉強になった | 27人 |
| 3 興味がわいた | 4人 |
| 4 つまらなかった | 1人 |
| 5 難しくてよくわからなかった | 0人 |
| 6 想像と違った | 4人 |
| 7 その他 | 1人 |

●自分の願い事を発表されて良かった。

●関心のある内容だったので参加を決めた。

●是非、参加したいと思った。

●どうして自分が選ばれたのか不思議だった。

●積極的に参画した。

6. 市民討議会に参加された前と後で何かかわりましたか？

●熱心な心ある市民の対話の重要性を覚えた。

●市の名所など知識として得た。

●村山の街づくりに興味を持った。

●市内の良さが分かった。

●みなさん考えているんだなーと思いました。

●何も知らなかったことが多すぎた。

●モノレールの採算性へのこだわり、心配によって延伸に消極的になる意見。

●市民との交流ができた。

●参加者が日頃色々と考え方を持っていたことに気付いた。

●みんな真剣に街の事について考えているのだなということがわかった。

●モノレールの建設の難しさ。

●市の様子がより多くわかった。

●初めての参加です。これからも出てもいいかなと思いました。

●モノレール延伸計画は、既成事実なんだ……

●市の様子がより多くわかった。

●初めての参加です。これからも出てもいいかなと思いました。

●他の市民の方からたくさんの意見を聞くことより、これからの武蔵村山を変えていくヒント学ぶ事ができとても充実していました。

●自分が武蔵村山に住んでいるという意識を強く持つようになった。

●共通の話題に関心を持っている人がいる一体ができた。

●意識が高まった。

- 延伸に対しての期待がふくらみました。
- 特に変化なし。
- もっと、武蔵村山について知りたいと思った。
- 自分の住んでいる地域の魅力がわかった。
- もっと武蔵村山を知るきっかけとなった。
- 実情が（不明な点が多かった）
- 村山にある物、希望するもの。
- 村山のビジョンを具体的に考えたいと思った。

7. 情報提供(者)についてはいかがでしたか?(複数回答可)

- | | |
|-------------------|-----|
| 1 説明がわかりやすく参考になった | 16人 |
| 2 説明がわかりにくく疑問が残った | 2人 |
| 3 情報に偏りがあった | 13人 |
| 4 説明が長い | 2人 |
| 5 説明が短く不足感があった | 4人 |
| 6 その他 | 3人 |
- 特に何にも感じない
 - モノレールが延伸した場合とすでに既製のよ
うな説明は予想外でした。
 - 案内状には情報操作性を避け異なった意
見・・・と有ったが情報提供者(4名)
全員がモノレール賛成、おかしくないですか?
 - 明瞭な話がよい(会事体の)

8 討議グループの人数や雰囲気は如何でしたか?

- | | |
|-----------------|-----|
| 1 ちょうどいい | 32人 |
| 2 少ない | 1人 |
| 3 多い | 1人 |
| 4 和やかで話しやすい | 1人 |
| 5 参考になる意見が多かった | 5人 |
| 6 自分の主張ばかりが目立った | 1人 |
| 7 話しづらく重い雰囲気だった | 0人 |
| 8 その他 | 0人 |

- 6~7人が適当ではないか。(小生・午前/午後
共4人)

- 自前に資料を具体的に

9. 討議(個人の意見出し~グループのまとめ)の時間はいかがでしたか?

- | | |
|----------|-----|
| 1 長かった | 2人 |
| 2 少し長かった | 2人 |
| 3 丁度良い | 16人 |
| 4 少し短かった | 15人 |
| 5 短かった | 2人 |

10. 討議会全体(開会10:00~閉会16:30)の時間はいかがでしたか?

- | | |
|----------|-----|
| 1 長かった | 3人 |
| 2 少し長かった | 8人 |
| 3 丁度良い | 23人 |
| 4 少し短かった | 3人 |

11. 謝礼についてご意見をお聞かせください。 また、その理由は?

- | | |
|---------|-----|
| 1 支払うべき | 22人 |
| 2 いらない | 8人 |
| 3 その他 | 6人 |

- 本当に意見を持つ人が参加する。
- やる気がする。
- 額の問題ではないが、あった方が参加者も真剣になる。
- どちらでも良い。
- ボランティアで良いかと・・・
- 市に貢献している部分もあるのであっても良いかと思えます。
- ないと参加を促すことができないのでは。
- 来てからの案内で良かったのでは? 謝礼目的の参加が防げるのではないか。
- その費用を他に活用してほしい。

12. a) 今回1日の開催に対する謝礼の金額についてはいかがでしょう?

- | | |
|----------|-----|
| 1 適切 | 28人 |
| 2 多いと思う | 2人 |
| 3 少ないと思う | 4人 |

b) 前問a)で1「適切」以外にお答えの方に おたずねします。

1日の開催に対して適切と考えられる金額はいくらですか?

¥(5),000- 3人

13. ご案内状の送付に関する質問です。

a) 今回の無作為抽出は市内地番からランダムに取り出し、ご郵送にてお届けしました。

市民討議会のような目的で、住民基本台帳を用いて無作為抽出を行う事に関してどう思われますか?

- | | |
|-------------------|-----|
| 1 妥当な目的だと思う | 29人 |
| 2 住民基本台帳は使用すべきでない | 7人 |

b) 前問で2「使用すべきでない」とお答えの方におたずねします。その理由をお聞かせください。

- 住基台帳は、それなりの有資格者以外に開示されるべきでない。
- プライバシー
- 目的外使用にあたる。歯止めがなくなる。
- 公的な事業活気のために使う。
- 他の手段があればそちらが良い。
- プライバシー問題

14. 今後「市民討議会」で取り上げてほしいテーマは何ですか?

- モノレール関係

- モノレールの件
 - 街づくりの件
 - 収益性と予算内容情報がほしい。
 - 住宅を建てる時緑がほしい。
 - 交通アクセスの強化
 - 市民の共通化を図ると良いのではないか。
 - 市民ができる街の維持、管理システム
 - 校庭芝生の管理
 - ゴミ回収分別の精度向上（焼却処分を大幅に減す）
 - 暮らしやすくするために（暮らしやすさとは何か？）
 - 学校教育のあり方-教科書採択で現場の教員の意を尊重すべきである。
 - センター式の給食のあり方-量が少なく味もイマチの現状。
 - 都営住宅が多くありすぎることに對して、都に建設しないように要請すべき-財政負担が自治体にかかりすぎるといふ問題。
上記の点を市当局も検討すべきである。生活保護者の地元の負担が多すぎるために、市が財政難におちいっており、とても問題。学校給食費の不払い者がいるため、給食の質・量を落としていること。将来の子供達への成長にもマイナスになるう。
 - 自治会問題
 - 武蔵村山の高齢化問題
 - ゆるキャラ作成
 - 若い人も交えた討議（テーマは何でもいい）
 - 「少子高齢化」に向けた地域づくり
 - 行政計画への市民参加
 - 市の開発計画
 - 横田民営化の実現
 - 環境、ゴミ問題
 - 交通モラルの向上
 - 小中学生の学力UP
 - スポーツ振興について
 - 公園整備について
 - 市自信の発展の為、市を良くする関係を。
 - いじめ、不登校、ひきこもり等の子供達のための討議。
 - モノレールに関して
 - 催事規格に関して
- 15.ご意見やご要望がありましたらお聞かせください。
- 都の施設でもある狭山ヶ丘陵のハイキングをしている人が都心や神奈川県、千葉県、埼玉県人に多くあるので集客を計って行くことを望む。
 - ①貸自転車やバスの便等を整備し周辺の客を誘引する。
 - ②道の駅等の施設を作る等を実行する。
 - 情報提供者に反対/消極論者も必要

- 話を深めるのにはグループによっては困難を感じる局面もある。
- 勉強になりました。
- 年2回の市民討議会がしてほしい。
- 市の魅力の説明がブアー。もっと説明が上手な人を使って欲しい。
- 市議が傍聴に来ていない。この会の意義が半減している(声を掛けていない?)
- 意見はどのように反映されるのか?
- 資料の字が小さすぎる。このアンケートも字が小さく読みづらい。
- グループ討論の途中、何度も何度も時間の説明等をマイクで流された。その都度、討論が中断した。時間説明は最初にまとめて行い、途中では中断させないようにすべきだ。
- 午前、午後とも意見集約させてもらって勉強になりました。
- 色々な人の色々な意見が聞けて有意義だった。
- 若い人が少ないのが残念だった。
- 自分の街の将来のことなのに・・・
- 国全体の少子高齢化が進む中で高齢化対策（市としての取組み）を市民討議会で取り上げたらよいと思う。
- まとめる時間、発表時間は少し短い気もしたが、だらだらするよりいいと思います。
- 参加するまでは、“モノレール延伸”の是非を話しあうと思っていたが、頭から“延伸すべきの前提、案内状内容が違う。今後は、正確な案内とそれに沿ったにして頂きたい!!
- 大変貴重な時間を頂くことが出来ました。ありがとうございました。
- 今日は貴重な時間をありがとうございました。自分の住んでいる武蔵村山について色々と考え話す事が出来て良かったです。若い人が少なかったのも、今度は若い世代にも参加してもらった上で討論したいなあと思いました。お疲れさまでした。
- スタッフの皆さん・参加者の皆さんお疲れ様でした。
- 自分だけの考え、意見を聞いた後の思考に広がりが出た。市の行政に関心を持っている人の多さ、世代を超えた人の意見が聞いたのは大いに参考になった。
- 会の主旨をもう少し丁寧に説明して欲しかった。
- 本日はありがとうございました。同じ地域に住む知らない方々と意見交換ができたのはとても有意でした。こうした場を提供して下さったことに感謝いたします。
- 内容を具体的に知ったこと良かったです。
- 初めて参加させて頂きましたが、大変勉強になりました。今回の意見を必ず役立ててください。

市内ご在住の皆様へ

公益社団法人立川青年会議所

理事長 迎 浩一朗

地域交流委員会 委員長 三宮 毅彦

wellvoiceむらやま市民討議会参加のご案内

残暑の候、皆様におかれましてはご健勝の事と存じます。突然のご案内を差し上げることご無礼をお許しください。

公益社団法人立川青年会議所では、市民自らがまちの暮らしを創造していく地域社会を目指し、地域をはじめとする社会問題の解決に取り組んでいく“市民の社会参画”をテーマに、今回市内ご在住の世帯を対象とする「**wellvoiceむらやま市民討議会**」を開催いたします。

この事業は、市内在住世帯より「無作為に抽出」した皆様から参加を募り、様々な世代・職業の方で地域や社会の問題についてのディスカッションを行い、得られた合意を行政・地域に提言していくものとなります。

日常の暮らしの中、地域・行政との接点が少なく、問題意識をもちながらもこれまで地域の取り組みに積極的に参画するまでには…という市民の方は多いと思います。こうした皆様に「受け手」のままにせず、もっと多くの市民の豊かな知恵と経験を引き出し、地域に反映させることは、幅広く多様なニーズに対応した行政サービスの提供を可能にするとともに、地域の皆さんが実感し、参画意欲をさらに高める上で、重要なことと考えております。

立川青年会議所では、2006年「wellvoiceたちかわ市民討議会」として立川市において開催以来、これまでに武蔵村山市・国立市での開催を合わせて6回行っています。また都内の他地域、国分寺市・多摩市・日野市・町田市・三鷹市・調布市・青梅市・千代田区・江東区・葛飾区などにおいても、各地域の青年会議所主催、行政との共催により実施されています。立川青年会議所では、地域の課題などに対して「普通」の市民が抱く意識を広くくみとり、さらに地域社会への参画へと導く機会として、この「wellvoice」を多様な市民参画方法の一つとして、提案、実施していきたいと考えます。

- | | | | |
|------|-------------------|-----|-------|
| ■主催 | 公益社団法人 立川青年会議所 | ■後援 | 武蔵村山市 |
| ■日時 | 9月8日（日）9：30～16：30 | | |
| ■会場 | 武蔵村山市役所4階会議室 | | |
| ■テーマ | 武蔵村山の近未来について考えよう | | |

隣接する立川市が駅前を中心に巨大都市化を図る中で、武蔵村山市は武蔵野の自然を色濃く残す素晴らしいまちです。そのまちを、新青梅街道の拡幅事業やモノレールの延伸計画を受けて、立川のように都市化を進めていくのか若しくは、今のままの自然を残すまちづくりを目指すのか、それとも都市化と自然の良さを両立させた発展が可能なのか、武蔵村山は今ちょうど、その分岐点にあると言えるのです。

あらゆる可能性が広がる武蔵村山の未来について、市民の皆さんで話し合ってみませんか。

- 1)そもそも武蔵村山に何故モノレールが必要なのか
- 2)モノレールで人を呼び込むために、「むさむら」の魅力を掘り起し、まちを発展させよう

*同封のチラシもあわせてご覧ください *小テーマ名称・内容については変更の可能性があります。

30名(5名×6グループ)*先着登録順となります。定員に達し次第終了となります。

同封のハガキまたはFAXにてご返信ください。

***郵送:8月31日到着分・返信分まで**

- 募集人数
- 申込方法

今回のご案内投函の経緯について

「wellvoiceむらやま市民討議会」の参加者募集に際して、無作為に抽出した5,000世帯の皆様にて本ご案内をお届けしております。

突然のお手紙に、ご迷惑等お掛けすることも多々あるかとおもいますが、何卒ご理解の上、ご家族の中より18歳以上の1名の方に、今回の討議会にご参加いただければ幸いです。

当日の討議方法について

今回は先着順に30名の参加者を募集いたします。5名ずつのグループに分かれ、2つの小テーマに分け、各グループでディスカッションを行います。

名前こそ「討議」とありますが決して堅くならず、アットホームな雰囲気でお話をしていただけるような設営を致しますので、どうぞお気軽にご参加ください。

「テーマについての知識がいるのでは…?」と思われる方へ

テーマについての事前知識がなくても大丈夫です。「wellvoice」は皆様がそれぞれのテーマについて勉強ができる場でもあります。予めテーマについての情報提供をさせていただきますし、わからないこと、ちょっと違った方向へそれと感じた場合、討議が進まない事等があるときはスタッフがサポートいたします。

謝礼について

皆様の貴重なお時間をお借りして行う討議会ですので、文字通りそのお礼としての意味合いがあります。それと、討議の結果を行政を始めとする関係機関へ提言したり、マスコミなどを通じて公表させて頂く上で、皆様に楽しみながらも真剣に討議して頂くための参加報酬という目的でお支払しております。ですので、意見をドシドシ出して頂き、活発な討議になるようご協力お願いします。

(…討議にご参加の方には、謝礼の受け渡しとして領収書に判子を押して頂きますので、当日ご持参ください。)

傍聴ご希望の方は…

例えば、興味はあるけれどディスカッションに参加する自信はないなあ…という方は、傍聴ができます!!
傍聴者は直接討議に加わることはできません。また、会場の広さの都合上、別室での傍聴とさせていただく場合がございます。

悪しからずご了承ください。事前に傍聴を希望される方は同封のハガキ若しくはFA×にてお申込みください。

最後に

明るく楽しいディスカッションを目指しております。市民参画の試みである「wellvoice」を活用し、市民自らが「まち」のことを考え、「楽しく・住みやすく・安心して」暮らせるたちかわを創造していくためにも、ぜひとも皆様のご参加をお待ちしております。

市内ご在住の皆様へ

ご挨拶

公益社団法人立川青年会議所

理事長 迎 浩一郎

地域交流委員会 委員長 三宮 毅彦

本日はご多忙の中「wellvoiceむらやま市民討議会」にご参加いただき、ありがとうございます。
地方分権が進む昨今、国や地方自治体でつくられる計画や条例などにおいて、市民の意見を取り入れる機会が増えてきました。しかし、その手法は、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べているのは関係者や専門家などの特定の市民であるのが実状ではないでしょうか。
普段会社に勤め、家事を行い、子どもを育て、学校に通い、趣味にいそしむ、そんなごく普通の生活をするみなさんの声こそが本当の市民の声、社会の声として、行政に届け、活かしていくべく声ではないでしょうか。

(公社)立川青年会議所では、より多くの、幅広く市民のみなさんのご意見を伺う市民参画の手法として、「wellvoice市民討議会」を開催し、社会に定着させたいと考えております。ぜひ、みなさんの声をおきかせください。

本日もご参加いただきました皆様が愉しみながら、かつ有意義な時間を過ごせるよう、プログラムには様々な工夫を凝らしました。

新しい試みであり、不慣れから至らぬ点多々あるかと思いますが、どうぞ最後までお付き合いくださいますよう、宜しく願いいたします。

市民討議会とは

無作為に選んだ市民に「あるテーマ」に関する客観的な情報提供を行い、さらに5人程度のグループで議論した後に意見の集約と投票を行い、その結果を一般市民の意見として行政、関係機関、マスコミ等に提出・公表していくものです。従来の公募型市民会議やパブリックコメントなどの仕組みでは拾い上げられなかった「サイレントマジョリティー(声無き多数派)」の意見を聞く仕組みとして、また従来の世論調査では得られなかった「よく考えられた」意見を聞く新しいスタイルとして、全国各地で注目されています。

従来の公募型市民会議
結果的に一部の人々団体の声しか
御られない

世論調査
無作為抽出であるが、人々がよく
考えた声ではない

市民討議会
無作為抽出によって選ばれた人々が、
行政や利益団体の講を聞いた上で審
議を行い、意見を形成する。一般市
民によって熟慮された声を掲げること
ができる

ご参加の皆様へ

wellvoice むらやま市民討議会 当日のご案内

公益社団法人立川青年会議所

理事長 迎 浩一朗

地域交流委員会 委員長 三宮 毅彦

拝啓 残暑の中にも少しずつ秋を感じるようになりました。
この度は、「wellvoice むらやま市民討議会」にご応募いただきましてまことにありがとうございます。ここに当日のご案内をお知らせ致しますので、予めご一読頂き「wellvoice むらやま市民討議会」にご出席くださいますようお願い申し上げます。

日時：2013年9月8日 日曜日 9：30 受付開始 10：00 開会 16：00 解散予定
場所：武蔵村山市役所 4階会議室

【持ち物】

- 本状（wellvoice むらやま市民討議会 当日のご案内）
- 身分証明書（免許書・保険証などお名前の明記されているものを御持参ください。
受付にてご本人様確認をさせていただきます）
- 印鑑（謝礼金をお支払する際、領収書を頂きます。用紙はこちらで用意いたしますので認印で結構ですでお持ちください。）
- 筆記用具

【注意事項】

- 必ず午前、午後通しでのご参加、時間厳守でお願い致します。
- 駐車場は確保致しかねますので出来る限り公共機関や自転車をご利用ください。
- 昼食はこちらで用意いたします。
- 当日は広報、記録用紙に討議の様子を写真撮影させていただきます。不都合のある方は事前にお申し出ください。

【謝礼】

- 「wellvoice むらやま市民討議会」終了後、現金にてお渡しいたします。
- 金額は¥3,000-です。

※申し訳ございませんが遅刻・早退の場合はお支払い出来ませんので、予めご了承ください。

では、当日お会いできるのを楽しみにしております。

郵便はがき

1 9 0 8 7 9 0

238

立川郵便局
料金受取人払郵便

立川郵便局
承認

1104

差出有効期間
平成25年8月31日
まで(切手不要)

9月8日 目 wellvoice むらやま市民協議会

参加・不参加・傍聴のいずれかに○をおつけください

参加します
参加しません
傍聴します

8月31日必着にて
ご投函ください!

* お差し支えなければ、理由をお書きください。
今後の事業開催の参考にごさせていただきますと存じます。

ご氏名

性別 男・女 年齢 歳

ご住所

お電話 ()

E-Mail

立川市曙町2-38-5
立川ビジネスセンタービル12階
公益社団法人 立川青年会議所
wellvoice むらやま市民協議会 発行



wellvoice むらやま市民討議会 参加ご回答書

参加・不参加・傍聴 のいずれかに○印をお付けください

9月8日(日)wellvoice むらやま市民討議会に

参加します

参加しません

傍聴します

FAX締切：8/31(土)まで

※お差し支えなければ、理由をお聞かせください。今後の事業開催の参考にしたいと存じます。

ご氏名 _____

性別 男・女 年齢 歳

ご住所 _____

お電話 ()

E-Mail _____

FAX 送信先

公益社団法人 立川青年会議所 事務局 042-527-6600

※当日までに確認のご連絡を差し上げる場合があります。あしからずご了承ください。

wellvoice

む ら や ま 市 民 討 議 会

2013年9月8日（日）

主催：公益社団法人立川青年会議所

地 域 交 流 委 員 会

会場：武蔵村山市役所401大集会室

氏名	討議グループ	
	午前	
	午後	

市民討議会の結論の出し方(写真はイメージです)

STEP1

講師(情報提供者)から情報と知識を得ます。

STEP2

小グループに分かれて討議を行います。

STEP3

各グループより意見の発表を行います。

STEP4

全体での投票により、意見の傾向を把握します。

市民討議会のねらい・活用について

本日の「wellvoiceむらやま市民討議会」で皆様にディスカッションいただいた結果をもとに、市民の声として報告書を作成の上で各方面に配布し、行政、メディア、そして地域の皆様にその「声」を届けて行きます

討議会のルールと概略

■全体のルール

- 1 会場並びに施設内は禁煙です。喫煙は休憩時間に指定の喫煙場所をお願いします。
- 2 情報提供や討議の間は、携帯電話やメールのご利用はご遠慮ください。
- 3 討議中のパソコン使用や個人による録音、カメラ・ビデオ撮影は、原則としてご遠慮ください。
- 4 昼食ならびに討議中のお飲物はこちらで用意いたします。
- 5 このハンドブックは回収しませんのでご自由にお持ちください。
- 6 お互いは「さん」づけでお呼びください。

■グループ討議のルール

- 1 討議されるみなさんが気軽に話しやすい雰囲気を作るため、討議者・情報提供者および運営スタッフを除き、原則として討議中の入室を制限します。(ただし、主催者側の判断により関係者やメディアの方々が入室することがあります。)
- 2 報告・提言資料作成、ならびに次回以降開催におけるPR等のため、運営スタッフが討議の風景をカメラ・ビデオなどで撮影する場合があります。
- 3 小グループにおけるリーダーは参加される皆様一人ひとりです。積極的な発言をお待ちしております。なお、他の意見に対する批判を超えるような誹謗中傷はおやめいただきますようお願い致します。
- 4 皆様がディスカッションしやすい環境をつくりことを第一に考えております。何かお困りの点がありましたら近くのスタッフまでお申し付けください。

【本日のテーマ】

武蔵村山の近未来を考えてみませんか？

■背景

隣接する立川市が駅前を中心に巨大都市化を図る中で、武蔵村山市は武蔵野の自然を色濃く残す素晴らしいまちです。そのまちを、新青梅街道の拡幅事業やモノレールの延伸計画を受けて、立川のように都市化を進めていくのか若しくは、今のままの自然を残すまちづくりを目指すのか、それとも都市化と自然の良さを両立させた発展が可能なのか、武蔵村山は今ちょうど、その分岐点にあると言えるのです。あらゆる可能性が広がる武蔵村山の未来について市民の皆さんで話し合ってみませんか。

■小グループ討議

グループで自由に話し合い、5つ以内で意見をまとめてください。これとは別にぜひとも残したい意見(付帯意見)がある場合は1つ、指定の欄にご記入ください。

机上の付箋はご自由にお使いください。

■発表と投票

各グループの代表者から、グループ討議より集約された意見を発表してください。

最後に、全体で投票を行います。一人あたり5票が割り当てられます。

また、他グループから出された「これは！」意見にも投票できます。

多くの票を得たアイデアほど、多数の人々の共感を得られた意見として提示されます。

DISCUSSION1(第1討議テーマ)

○そもそも武蔵村山に何故モノレールが必要なのか

モノレールは、確かに便利な乗り物です。今まで公共交通手段がバスしかなかった武蔵村山市民にとっては悲願の一つかもしれません。しかし、一方で料金の高さやコストの高さなども指摘されております。また、公共交通施設充実としては、先程述べたバス等の更なる充実という考えもあります。

第1討議では、「武蔵村山の未来」を考える前に、改めて、そもそもモノレールってどんな特徴や役割があるのだろうか？モノレールそのものについて、或いは、モノレールを利用することで生ずるメリット・デメリットって何でしょう？について考えてみたいと思います。

「何故モノレールが武蔵村山に必要なのか」ということについて、色々な角度から考えてみませんか。例えば、あなたはどんな理由でモノレールを利用しますか？どんな理由でモノレールを利用しませんか？

【情報提供】

- ①武蔵村山市 都市整備部 都市計画課長 指田政明氏
- ②明星大学理工学部教授 木下瑞夫氏

DISCUSSION2(第2討議テーマ)

○モノレールで人を呼び込むために、「むさむら」の魅力を掘り起し、まちを 発展させよう

隣接する立川市が駅前を中心に巨大都市化を図る中で、武蔵村山市は武蔵野の自然を色濃く残す素晴らしいまちです。そのまちを、新青梅街道の拡幅事業やモノレールの延伸計画を受けて、立川のように都市化を進めていくのか若しくは、今のままの自然を残すまちづくりを目指すのか、それとも都市化と自然の良さを両立させた発展が可能なのか、武蔵村山は今ちょうど、その分岐点にあると言えるのです。あらゆる可能性が広がる武蔵村山の魅力を掘り起し、まちを発展させる方策を討論しましょう。

第2討議では、モノレールの延伸で人が出ていくだけでなく、多くの人を訪れる魅力あるまちになるべく「むさむら」の魅力を掘り起し発展させる方策について討論してみたいと思います。

【情報提供】

- ①武蔵村山市 生活環境部 産業観光課課長 田代勝久氏
- ②モノレールを呼ぼう市民の会 副会長 澤田泉氏
- ③立川南口西通り西会商店会会長 小澤清富氏

情報提供者ご紹介

○木下 瑞夫(きした みずお)氏

明星大学理工学部 総合理工学科 環境・生態学系 教授

専門分野 都市交通、都市計画、環境影響評価

学歴

1970 年 九州大学工学部

1983 年 University of Pennsylvania School of Engineering 工学系研究科

経歴

1986 年～1989 年 アジア開発銀行

1999 年～2001 年 タイ内務省都市地方計画局

2005 年～ 明星大学理工学部 環境システム学科 教授

研究概要:

都市は、人間の生産や消費活動が集中する場所であり、人間生活にとってなくてはならないが、一方で大量のエネルギーを消費し地球温暖化に最も大きな影響を与え、かつ大気汚染、騒音等の環境問題が最も発生しやすい場所でもある。このような状況を踏まえ、環境負荷の少ない都市交通計画、持続可能な都市再構築のための都市計画と環境影響評価、アジアにおける都市問題解決方策についての研究を行っている。

所属学会と活動:

————— ・(社)日本都市計画学会、理事、企画・総務委員会委員

・(社)土木学会、フェロー会員

・(社)交通工学研究会

・(社)日本不動産学会

委員歴

2001 年 藤沢市都市計画審議会委員

2006 年 ちがさき都市マスタープラン見直しに伴う策定委員会委員(座長)

2007 年 川崎市都市計画審議会委員

2008 年 茅ヶ崎市総合計画審議会委員

○澤田 泉(さわだ いずみ)氏

モノレールを呼ぼう市民の会 副会長

(モノレールを呼ぼう市民の会について)

私達の住む武蔵村山市には、電車・鉄道の駅がありません。

その為に、都内への通勤・通学にも多くの時間がかかります。

旅行や出張で羽田空港に行くためには、飛行機で海外に行くよりも時間がかかってしまうことがあり、笑い話にもなりません。また、市内循環バスが走っていますが、駅が一つもないためにその路線設定は大変難しく、病院や公共施設を巡回しながら走るため、目的地に行くためには大変遠回りになってしまったりしています。

以上のように公共交通の便が悪いために、市民の多くは自動車を利用し、大型商業施設もあることなどから、市内の幹線道路は、土日を中心に慢性的な道路渋滞に陥っています。

将来を担う子供たちが、生まれ育った武蔵村山を誇りにし、学生や大人になってもこの武蔵村山に住み続けてもらうためにも、また活力あるまちづくりのためにも、モノレールの市内延伸は不可欠です。

狭山丘陵の豊かな自然や里山があり、市民の人情が厚い武蔵村山市に、多摩モノレールが走り、交通不便が解消されれば、日本一住み良い街になれると思っています。

○小澤 清富(おざわ きよとみ)氏

1968年4月28日生まれ

㈱入船茶屋 専務取締役

立川南口西通り西会商店会会長

立川南口商店街会員

2004年～2008年立川青年会議所所属

立川駅南口の商店街はモノレールの開通に伴い、東西に分断されてしまいました。

それまであった人情味あふれるコミュニケーションや情報交換がままならなくなりました。

まちづくりというのは地域力とそこに住まう人々の力が合わさって作り上げられるものだと思います。

上北台～立川北駅が先に開通したことで、当初は乗降客、集客の差を感じておりましたが、南口の特性を活かしたイベントを打ち出し、流れは変わったと思っています。

今回は、一市民、一店主としてお話できればと思っています。